

第2回甲府市社会福祉審議会 児童福祉専門分科会 計画部会 議事録要旨

日時：令和6年6月28日（金）15時00分～

場所：甲府市役所 本庁舎4階大会議室（防災対策室）

1. 開会

2. 部会長挨拶

3. 議事

（1）「甲府市子ども・子育て支援計画」の令和5年度実施状況について

【事務局】

「甲府市子ども・子育て支援計画」の令和5年度実施状況について、事務局より説明。

【委員】

- 延長保育について、11時間以上の保育に対しての助成という認識で問題ないか。

【事務局】

- その認識で問題ない。

【委員】

- 事業を継続するだけではなく、国の方針である「こどもまんなか社会」の実現に向けて、延長保育を利用しなければいけない状況を抑制するような働きかけも行っていきたい。

【委員】

- 病児保育について、目標値に対して、実績値が半分である状況であるのにもかかわらず、予算額の執行率が約95%となっている理由を教えてください。

【事務局】

- 目標値は計画策定時に設定しており、予算額は前年度の実績から算出しているため、目標値の達成率と予算額の執行率は連動していない。

【委員】

- 目標値の設定が高すぎると思われる。実績値が増加すると、費用も増加する認識か。

【事務局】

- 国からの補助金を活用しており、補助金が基本分と加算分から構成されているため、実績値増加に伴い加算分が増加する認識である。

【委員】

- 体調不良型について、園や保育所ごとに看護師を常駐させる必要があり、固定費として看護師の人件費がかかるため、事業の実績値に関わらず、予算が必要となると認識している。

【委員】

- 確保量について、看護師の人数と勤務した日数で算出している認識か。

【事務局】

- 確保量については、病児保育における年間の利用者の延べ人数から算出をしている。

【会長】

- 目標値について、社会的変動要因（職場における休暇の取りやすさ等）もあるため、設定が難しいものと想定される。また、事業の特性上達成率が55%であっても、事業が適切に実施されていないということではない認識である。

【委員】

- 昨年度実施された第3期子ども・子育て支援事業計画策定に関するニーズ調査の自由回答欄を確認すると、養育支援訪問事業等のサービスについて知らないケースがあるのではないかと推測している。甲府市において子育てに係るサービスは充実していると考えられるため、SNSを活用し情報をプッシュ型にする等サービスのPRを強化するべきではないかと考えている。養育支援訪問事業の認知度について、現時点の認識を教えてもらいたい。

【事務局】

- 市民に対して、養育支援訪問事業等の特定のサービス名を周知していないため、周知がどの程度行われているか把握していない状況である。一方で、困った際に相談できる相手として、マイ保健師や子ども・青少年総合相談センター「おひさま」等があることを妊娠期間中から市民に周知を実施している。

【委員】

- 「令和5年度子ども・子育て支援計画 数値目標設定事業 実施状況について」に基づき、委員より説明。要旨は以下のとおり。
 - ✓ 第3期子ども・子育て支援事業計画策定に関するニーズ調査の自由回答欄に記載のある意見が利用者からの意見に反映されていない部分がみられる。
 - ✓ 地域子育て支援拠点サービスについて、「おしろらんど」の予約が取りづらい状況や利用料が高い状況にあるため、既存の各幼稚園・保育園・認定こども園を土日に開放する等検討してもらいたい。
 - ✓ 家庭教育講座について、PTAの保護者役員を動員して参加させることや、忙しい現場の教師に講師を依頼しているようなことがないか懸念している。
 - ✓ 放課後子供教室について、目標値が低いと思われるが、目標値が妥当なものか教えてもらいたい。
 - ✓ 未満児の保育料について、近隣自治体は無償化を実施している状況で、甲府市の考えを教えてください。
 - ✓ 保育士不足の解消や、保育士の待遇改善に取り組んでももらいたい。
 - ✓ 資料に記載のある各事業の内部評価は、甲府市の担当者の評価なのか教えてもらいたい。もし、そうである場合は、事業者の評価も記載すべきである。

【事務局】

- 「おしろらんど」について、予約制から先着順になっており、利用料も同様の施設と比較すると低く価格設定をしている状況である。土日の既存施設の活用については調査していきたい。
- 家庭教育講座については、PTAの保護者役員を動員して参加させている実態はない状況。また、講師においても校長先生や学年主任に依頼する場合はあるが、外部講師に参加依頼するケースもある。
- 放課後子供教室について、学校との調整や支援員の確保という課題があるため、実施可能な数を設定している。
- 未満児の保育料について、近隣自治体においては無償化の動きがあるものの、中核市においては条件付きでの対応を除くと、無償化を実施している自治体はないと認識している。今後国の動向も注視しながら検討していきたい。

- 各事業の内部評価については、甲府市の担当者の評価である。今後報告書の見せ方の部分については検討する。

(2)「(仮称) 甲府市こども計画」について

【事務局】

「(仮称) 甲府市こども計画」のスケジュール・アンケート調査概要について、事務局より説明。

【委員】

- こどもを対象としたアンケート調査を実施することで、こども計画が充実したものになるのか疑問を持っており、次期計画策定については、こどもを支えている大人が主体となって決めていくことが望ましいと想定している。こども向けのアンケート調査ではなく、合理的配慮が必要な幼児への支援強化に係る調査をしてもらいたい。背景としては、合理的配慮が必要な幼児が増えている状況の中で、園が加配等で対応していることに加え、対応専門の療育機関ではすでに受け入れ人数が逼迫している状態であり、現場が困っていることが挙げられる。次期計画においては、障がい児保育についての対策、事業等を記載すべきだと考えている。

【事務局】

- こども・若者を対象としたアンケート調査については、こども基本法の中でこどもの意見聴取の記載があることから実施を予定している。アンケート調査とワークショップからこどもの意見聴取を進めていく想定である。
- 障がい児への支援については、今年度策定された「障がい者福祉計画」にて記載があり、各サービスの見込量等も設定している認識である。また、「障がい者福祉計画」と「子ども子育て支援計画」については、横並びの関係となっているため、各計画において整合をとる必要がある部分については整合をとっていきたい。

【委員】

- 障がい者福祉計画に記載があったとしても、次期こども計画に入れるべき内容であると考えている。

【委員】

- 障がい児に加えて、不登校やひきこもりも増加している実態もあり、横断的な連携が必要と想定されるが、各課長が集まって定例的に会議を実施するようなことはあるか。

【事務局】

- 定例的な会議は実施していないものの、定期的に情報共有を実施している。

【委員】

- 計画策定においては、現場の意見や提案等を拾い上げて作成していくという認識で問題ないか。

【会長】

- こども・若者の意見に加え、現場に携わっている委員の方々の意見を踏まえ、計画部会にて協議し、よりよい計画を策定していくものと認識している。

【委員】

- ワークショップについて、高校生・大学生のような若者がブレインストーミングのような形でアイデアを出しながら案を作り上げていく形が望ましいと考えている。ワークショップの規模について教えてもらいたい。

【事務局】

- 40名程度のワークショップを2回実施予定である。形式についても、ワールドカフェ方式を採用し、特定のグループに固まらず意見交換をしながら意見をまとめていくことを想定している。

【会長】

- こども向けのアンケート調査は、計画策定において有効なものと想定しているか。

【事務局】

- 他団体においても同様の調査は実施している状況であり、計画を策定するうえでは有効であると考えている。さらに、アンケート調査を有効なものとするために、必要なアンケート項目を設定するだけでなく、アンケートやワークショップにて収集した意見をとりまとめ、こども・若者に対してどういった意見が集まったか認知・理解してもらうところまで進めていく想定である。

【委員】

- 「甲府市子ども・子育て支援計画についての提言」に基づき、委員より説明。要旨は以下のとおり。
 - ✓ 「子ども・子育て支援事業計画」と少子化対策は密接に関連しており、人口減少が深刻化している中で、次期計画策定においては、出生数・出生率等の目標値は計画に示すべきである。
 - ✓ 子育て支援関連の財政支出について、目標設定をすべきであり、財政支出による効果（人口増加がどの程度期待できるか等）も示すべき。示せない場合においてもこれまでの実績を示すことは検討してもらいたい。
 - ✓ 市民の子育てに係る経済的負担を軽減する施策を行ってほしい。第3期子ども・子育て支援事業計画策定に関するニーズ調査の自由回答欄を確認すると、未満児保育の無料化、給食費の無償化等を望む声が確認できる。
 - ✓ 各事業の認知度が低い状況にあるため、広報のあり方を見直してもらいたい。
 - ✓ 放課後児童クラブについて、厳しい経営状況となっている。その中で、利用ニーズは高いと想定されるため、各所の経営実態調査等の現状調査から始めることを検討してもらいたい。また、こども向けのアンケートにおいても、放課後の過ごし方について聞く設問を追加してもらいたい。

【会長】

- 出生数、出生率については、様々な要素が複雑に関係しているため、こども計画において、設定するのは難しい認識である。

【事務局】

- 少子化対策について、子ども・子育て関連事業と関連しているが、働き方等の別の領域にも関連するため、子ども未来部だけではなく、庁内全体で連携をしていく想定である。また、将来の人口推移については、「甲府市人口ビジョン」を策定しており、人口減少に対する戦略として、「甲府市総合戦略」を策定している状況である。そのため、今後の人口問題に対する対応については、「甲府市総合戦略」を主軸としつつ、こども計画に関連する部分は整合をとっていきたい。
- 財政支出について、支出の割合を増やすことで、人口増加につながるには言い切れないため、目標設定することは難しい認識である。また、実績値においても計画に記載するのではなく、広報誌における本庁の予算、決算の報告によりご確認をいただきたい。

【委員】

- 人口ビジョンにおける人口推移の内容をそのまま載せる形でも問題ないため、次期計画においては、人口に関する現状を読み手に分かるようにしてもらいたい。

【委員】

- 次期計画についての、印刷部数、配布先、周知方法を教えてほしい。

【事務局】

- 部数は800冊、配布先は自治会等の福祉関係団体を想定している。概要版については、市民向けに周知を進めていく想定である。また、アンケートやワークショップに参加した子どもたちに対しては、子ども向けの分かりやすいリーフレットを紙や電子媒体にて作成し、配布予定である。

【委員】

- ワークショップの案について、現時点であれば教えてもらいたい。

【事務局】

- 現在整理中であるものの、甲府市へのニーズを中心に聞き出したいと考えている。特に、甲府市への意識や将来への希望に焦点を当てて整理していきたい。

【委員】

- 子どもたちが抱えている本当のニーズをワークショップにて聞き出してほしい。ワークショップにおいては、進行が重要となってくると思われるが、進行役は決まっている状況か。

【事務局】

- 進行は重要な要素であるため、知見のある人員にて開催予定である。必要に応じて外部の人材も取り入れていきたい。

【委員】

- こどもに関わっていない大人も相当数いると思われるため、こども計画が策定されたことによる大人側の捉え方も重要な視点と想定している。そのため、こども計画の周知方法については工夫をしてもらいたい。

【事務局】

- 次期計画については、こどもや子育てをしている親だけではなく、幅広く周知をしていく想定である。また、そのために周知方法については工夫していきたい。

【委員】

- アンケート実施後、その結果をどのように市民に伝えていくかが重要と認識している。

(3) その他

※特になし

4. 計画部会閉会